

ノロウイルスとは

ノロウイルスは、以前はその形態学的特徴から小型球形ウイルス（SRSV；small round structure virus）と称されていましたが、2002年に国際ウイルス命名委員会において、カリシウイルス科のノロウイルス属に分類されたRNAウイルス（一本鎖RNA）となりました。このウイルスは直径27～40nm（1nm＝10億分の1m）の正二十面体の形態であり、主に感染性胃腸炎の主な原因となります。欧米で70年以上も前から知られていた冬季嘔吐症は、現在、原因のほとんどがノロウイルスと考えられています。ノロウイルスは食中毒を起こす細菌と比べ、熱、薬剤及び乾燥への抵抗性が強く、また、ヒトの小腸上皮細胞以外では増殖することはできないと考えられています。さらに、感染力が強く、少量（100個以下）で感染が成立するとされています。

ノロウイルスの感染力

ノロウイルスの感染力は非常に強く、約10～100個のウイルスで感染が成立するといわれています。ノロウイルスの排出量については、下痢・嘔吐などの症状があるノロウイルス発症者のグループで $10^5 \sim 10^9$ copy/g、症状がない非発症者のグループの平均で $10^3 \sim 10^7$ copy/gと、ノロウイルスの排出量に差があまりなく、自覚症状がないからといって安心は禁物です。また、ウイルスの排出期間は成人平均で約2週間ですが、2ヶ月以上排出した事例も報告されていますので、注意が必要です。

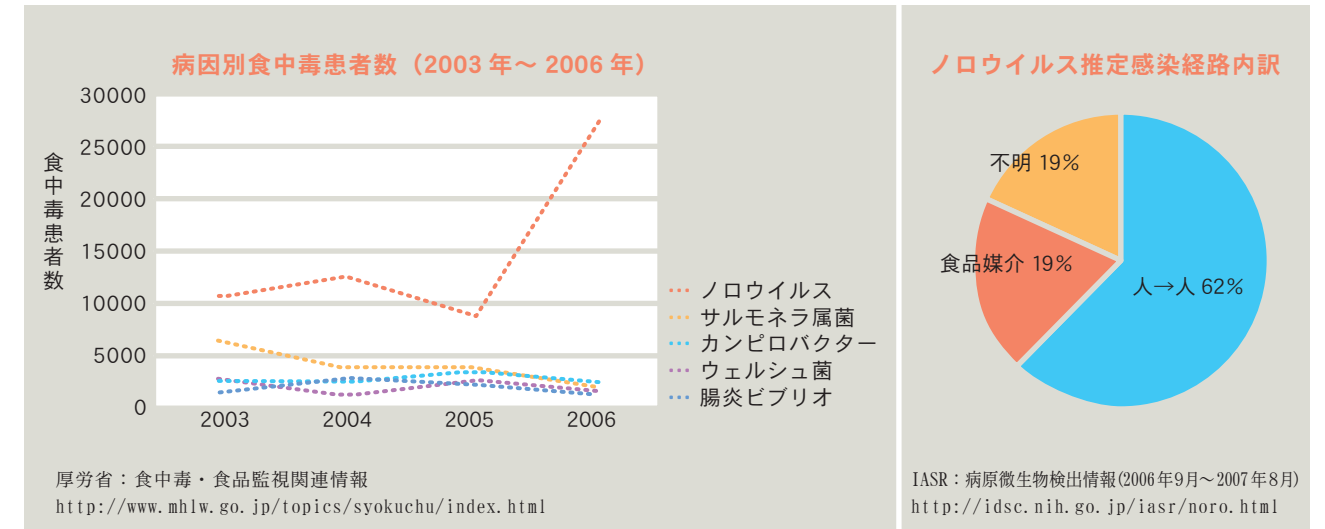


ノロウイルスの遺伝子型

現在、ノロウイルスに属するウイルスはGenogroup I（GI）とGenogroup II（GII）の2つの遺伝子群に分類され、さらにそれぞれは14と17あるいはそれ以上の遺伝子型（genotype）に分類されます。また、各遺伝子型に対応した血清型があると考えられ、極めて多様性を持った集団として存在します。

ノロウイルスによる食中毒患者数

厚生労働省の食中毒・食品監視関連情報によると、ノロウイルスによる食中毒患者数が2001年以降第1位となっています。また、人から人への感染および食中毒1事件あたりの患者数が非常に多いのが特徴です。



ノロウイルス検査に用いられる検査方法と検出感度

検査方法	検出感度
RT-PCR(当社検査方法)	50*
RT-LAMP	60～200*
TRC	100～3000*
ELISA	100,000**
電子顕微鏡	1,000**

* 1回の反応時に必要なウイルスの遺伝子の数（copy/test） ** ウイルス粒子数

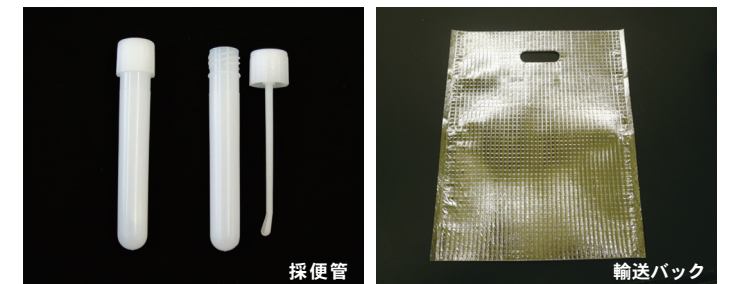
東京都食品安全情報評価委員会報告 調理従事者を介したノロウイルス食中毒の情報に関する検討報告書より
(http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/hyouka/shiryo2006/2006noro3-siryol.pdf)

ご依頼方法

容器	必要量	検体保存	検査日数
専用容器	糞便2g以上	凍結	検体到着後2～5日

※糞便中には、ウイルスのRNAを壊してしまう酵素が存在するために、採取後室温で放置しますとウイルスのRNAが壊されてしまう恐れがありますので、**検体の提出は凍結**でお願いいたします。

※お急ぎの場合、あらかじめご連絡をお願いいたします。



※依頼書および採取容器につきましては、営業担当者にお申し付け下さい。